

チケット販売

1回券=1,200円 3回券=3,000円

特別券=600円 対象:小・中学生、障害者及び介助者(1名) ※特別券は1回券のみ販売 ※未就学児無料

入手方法: プレイガイドは吉岡宿にしぴりかの映画祭ホームページ上でご案内します。 <http://nisipirica-eiga.com>

メール予約=info@nisipirica.com FAX 予約=022-343-7077

いずれも返信で予約番号をお知らせします。当日受付で予約番号をお知らせください。

送信後3日以内に返信がない場合は、再度ご確認ください。

お知らせ

- ・各日10時30分から各回の整理券を配布いたします。整理券は当日のみ有効となります。
- ・各回定員が40名となっております。40名を越えた場合、別会場(2階アトリエ)での視聴となります。
- ・施設内のトイレ(バリアフリー)は一つです。
必要に応じて隣接するグループホームのトイレをご案内します。係にお申出ください。
- ・託児サービスは行なっていません。入場に年齢などの制限を設けておりませんので予めご了承ください。
- ・1日目座談会会場「叶蔵」はバリアフリーが施されておりません。移動が不自由な方は予めご相談ください。
- ・トークで情報保障が必要な方は事前にご相談ください。
- ・「字幕付」表記なしの3作品についても、現在字幕付与を検討中です。詳細は今後HP等でお知らせします。



宿泊・食事処

映画祭と合わせて近隣の観光にご利用ください

近隣の温泉	山野川旅館(台ヶ森温泉)	大和町吉田台ヶ森13	TEL.022-342-2057
	割烹ちどり荘(湯ノ原温泉)	大和町宮床字高山18-13	TEL.022-346-2565
近隣の旅館	遠藤旅館	大和町吉岡字上町20	TEL.022-345-2020
近隣のホテル	ビジネスホテル新ばし	大衡村大衡字石神沢20	TEL.0120-17-4084
	ホテルルートイン仙台大和インター	大和町吉岡字東下蔵27-1	TEL.022-344-5711
	大和パークホテル	大和町吉岡字天皇寺5	TEL.022-345-6680
美味しい処	農家絶品蕎麦屋「晴れたらいいね」	大和町落合検和田中道36	TEL.022-345-3360
	森の隠れ家「モカモアコーヒー」	大和町宮床字松倉沢77	TEL.022-346-5105

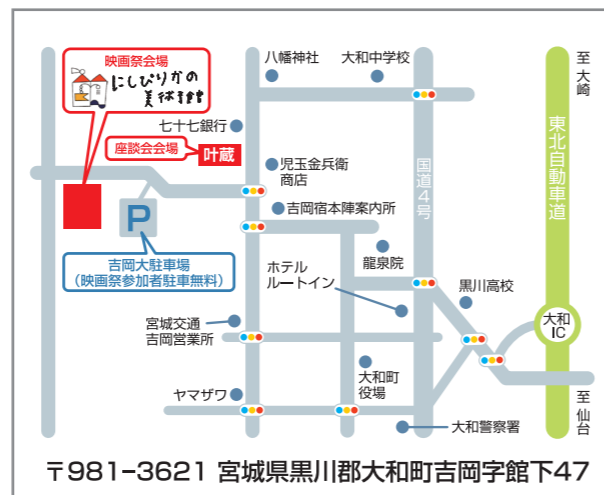
この他にも旅館・食堂等ございます。お問い合わせ下さい

アクセス

にしぴりかの美術館

- 自家用車
東北自動車道大和ICから西へ3km(途中案内看板アリ)
無料駐車場有
※映画祭臨時駐車場「吉岡大駐車場」をご利用ください。
- 高速バス
仙台駅、宮城交通大衡仙台線 吉岡営業所下車 徒歩12分
※仙台からのバスを下車後、振り向いた信号を左折し、
なだらかな坂を登り、二つ目の信号を左折して、左手に見えてきます。

行き	仙台駅発 8:25~ 吉岡営業所着 9:07	片道料金 900円
	仙台駅発 9:30~ 吉岡営業所着 10:12	
	仙台駅発 11:20~ 吉岡営業所着 12:02 ほか	
帰り	吉岡営業所発 18:14~ 仙台駅着 18:57(最終)	障害者割引 500円



イラスト・デザイン: 念佛明要 デザイン素材: 本濃研太, nisipirica 作品 題字: 鈴木崇広

吉岡宿にしぴりかの 日央画祭

2017年 9月30日(土) - 10月1日(日)

各日午前10時30分 開場



場所: にしぴりかの美術館 (宮城県黒川郡大和町吉岡字館下47)

主催: 吉岡宿にしぴりかの映画祭実行委員会

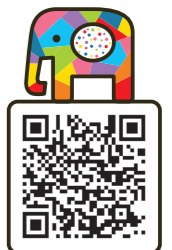
後援: 宮城県・大和町・富谷市・大郷町・大衡村・富谷市黒川地域自立支援協議会

助成: 公益財団法人ヤマト福祉財団

問合せ: 吉岡宿にしぴりかの映画祭実行委員会 (にしぴりかの美術館内)

FAX▶022-343-7077 E-mail▶info@nisipirica.com

Web▶<http://nisipirica-eiga.com>



9/30 土

吉岡宿にしりかの 日央画祭

10/1 日

1日目プログラム

- 11:00 オープニングトーク
- 11:10 『ある精肉店のはなし』上映(108)
- 13:00 お昼休み
- 13:45 『ただいま それぞれの居場所』上映(96)
- 15:45 『徘徊 ママリン87歳の夏』上映(77)
- 17:15 座談会参加者は叶蔵へ移動
- 17:30 吉岡宿ショートムービー座談会(120)
- 19:30 終了

※各回 上映の10分前には受付にお越しください ※仙台行き最終バス時間/18:14

開催にあたり

障害者差別解消法施行に伴い、遅ればせながら日本でも求められるようになった『合理的な配慮』。大切なのは困難を感じている本人から学ぶという事です。目の見えない苦勞は目の見えない人が一番分かる。さらに見た目は変わらなくても認識の仕方・心の傷などに苦勞している人は、ますます本人に聞かなければ分からない。私たち一人ひとりでは分からない事、知らない事がたくさんあるのです。

世の中の知らない事を教えてくれる映画。今年は高齢者と子供たちの居場所についての作品が主になりました。しかし、検討の途中では見た目への差別、性差別、性暴力、児童虐待等々の話題も多く出ました。まだまだ一緒に見て行きたい作品(世界)は多いようです。

ある作品は「絶望」とも言えるくらいの衝撃を与えるかもしれません。しかし「それでも捨てたもんじゃない」という「希望」を得られる作品もあると思います。知ることは怖い事かも知れませんが、でも、知ることは未来に光を照らす事。どうぞ、今年も知らなかったことを知り、未来への一歩を共に感じていただけたらと願います。 (実行委員代表/小野田豊)

2日目プログラム

- 11:00 オープニングトーク
- 11:05 『月あかりの下で ある定時制高校の記憶』上映(115)
- 13:00 お昼休み
- 13:40 『アヒルの子』上映(92)
- 15:15 小野さやか監督トーク
- 16:20 『ぼくたちは見た ガザ・サムニ家の子どもたち』上映(86)
- 17:50 終了

※各回 上映の10分前には受付にお越しください ※仙台行き最終バス時間/18:14

上映作品介绍



©やしほ映画社/ポレポレタイムス

『ある精肉店のはなし』

制作:やしほ映画社、ポレポレタイムス
監督:磯崎あや/2013年/108分

字幕付

大阪府貝塚市のとある小さな精肉店では、牛の飼育から屠畜解体までの一連の工程を家族みんなで担っている。毎日大粒の汗を額に溜めながら、丁寧に肉を切り分けるお父さん。それを元気に店頭で販売するお母さん。差別の歴史を背景に、「生」の本質を見続けてきた家族がひたむきに仕事に向かう姿は美しく、丹精込めて育てた牛の眉間に大槌を下ろすシーンは、思わず姿勢を正してしまうほどの厳肅さに溢れている。観る者に生きることの喜びと輝きを教えてくれる作品。



©大宮映像製作所

『ただいま それぞれの居場所』

制作:大宮映像製作所
監督:大宮浩一/2010年/96分

高齢者の介護現場を描いた作品。そういってしまえばそれまでだが、ここで日々営まれていることは「介護」というより利用者とスタッフの共同生活のよう。若者が運営する事業所では、日夜落語のような掛けあいがある。夢とうつつが重なりあってスタッフを叱りつけるおばあさん。引退した仕事にきょうも出かけていくおじいさん。老いるとは、なんと豊かなことだろう。「ただいま」のむこうには、いつも「おかえり」がある。そう、居場所とは逢いたい人のことなのだ。



©風楽創作事務所

『徘徊 ママリン87歳の夏』

制作:風楽創作事務所
監督:田中幸夫/2015年/77分

字幕付

舞台は大坂北浜。大都会のド真ん中に、ちょっと訳ありの母娘が住んでいる。母は認知症、娘は自宅マンションでギャラリーを営む。昼夜の別なく徘徊する母を見守る娘の姿は、近所の誰もが知っている。徘徊モードが一息つけば、母娘一緒に居酒屋やバーにも寄る。そんな二人のやりとりと、母の認知症を決して悲観することなくありのままに受け入れる娘の姿は、観ていて深い安心感に包まれる。誰もが直面する親の「老い」を、愛情とユーモアたっぷりに描いた作品。

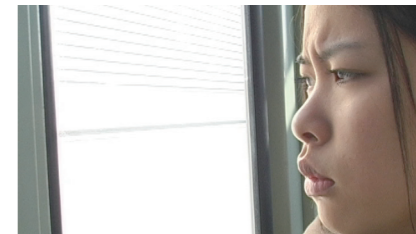


©グループ現代

『月あかりの下で ある定時制高校の記憶』

制作:グループ現代
演出:太田直子/2010年/115分

埼玉県立浦和商業高校定時制クラスの、入学から卒業までの4年間を描く。月あかりが照らす頃、さまざまな悩み、苦しみを抱えた若者たちがこの学校に通ってくる。重荷をひとりでしょい込み、冷たい世間をにらみつける若者たちを、教師は正面から受けとめ、ぶつかりあう。泣き、笑い、ケンカする本気の毎日。そんな熱風あふれる学校に、突然廃校の危機が訪れる…。人のあかりになれるのは人なのだと、眩しいほど魅力的な若者たちが教えてくれる。必見の感動作。



『アヒルの子』

制作:日本映画学校
監督:小野さやか/2005年/92分

東京で一人暮らしをしながら映画学校に通う小野さやかは、卒業制作を機に自分の内面を縛り付けてきた家族一人一人と対峙する決意をする。曖昧であるけれども強烈な自己嫌悪の衝動は、それまで何事も無く過ぎてきた家族との関係を激しく揺さぶり、破壊する。監督の必死な姿は、現代社会が抱える問題を鋭く抉り出すと同時に、どこか温かく見守ってあげたい気持ちにさせられる。破壊と再生の中で、新しい「ワタシ」と家族の関係性が立ち上がる過程を描いた作品。



©古居みずえ

『ぼくたちは見た - ガザ・サムニ家の子どもたち -』

制作:アジアプレス・インターナショナル
監督:古居みずえ/2011年/86分

字幕付

イスラエル軍の攻撃を受け、1,400人も住人が犠牲になったパレスチナ・ガザ地区。カメラは家族を失った子どもたちに寄り添いながら、その心の傷と変化を見つめていく。ガレキとなった街の中で、親族同士手を取り合い、食卓を囲む。日々の生活を営みながら、常に感じている愛する者の不在。不条理の中でも憎しみに支配されまいとする子どもたちの瞳に私たちは何を見出せばよいのか。20年以上パレスチナに通い続けた監督は、映像を通して静かに問いかける。

吉岡宿ショートムービー座談会 9月30日(土) 17:30~19:30

会場/叶蔵(黒川郡大和町吉岡字上町48) 映画祭会場より徒歩2分

~公募します! ショートムービー~

いまや映像はだれでも簡単に撮影できる時代です。自分自身がメディアになって、ふだん感じてることや考えてること、伝えたいことを映像で表現してみませんか? 吉岡宿ショートムービー座談会は、参加者が自身で制作した3分の映像を持ちよって上映し、語りあい、思いを深めあう場です。今回、座談会のショートムービーを公募します!

【公募にあたってのお願い】

- テーマ/「吉岡宿にしりかの映画祭」からイメージするもの
 - 応募資格/特になし。ただし座談会当日、製作者は必ず参加
 - 作品の長さ/3分以内
 - 上映素材/DVD、もしくはブルーレイ(メディアが確実に動くか確認するため、座談会の1週間前までに送付ください)
 - 申込締め切り/8月31日
- ※ 参加お申込は「にしりかの美術館」までmail、FAX、郵送のいずれかをお願いします。 ※ 座談会のみ参加も歓迎です。

参加者募集



~映像ワークショップのご案内~

にしりかの映画祭では毎月「映像ワークショップ」を開催しています。詳しくはホームページを確認ください。

ゲストトーク 「アヒルの子」はいま 10月1日(日) 15:15~16:00



小野 さやか 監督

1984年生まれ。愛媛県出身。2005年、日本映画学校卒業制作作品『アヒルの子』を製作。2010年『アヒルの子』全国劇場公開。2012年 フジテレビNONFIX『原発アイドル』。第50回ギャラクシー奨励賞。2013年 同じくNONFIXにて『僕たち女の子』。その他『隣人』(2012年 撮影で参加)など。現在はテレビ番組製作の傍ら自主映画の製作を続けている。